

Macrosynergy – 世界的ヘッジファンド

MACROSYNERGY
PARTNERS LLP

概要

業界

- 金融サービス

課題

- 重要なデータとシステムの安全を確保し、高い信用を維持する必要
- ネットワーク可視性を高めることによるプロアクティブなリスク緩和
- 情報セキュリティに対する投資家の関心の高まり

結果

- サイバー防御とリスク緩和に上級経営陣が関与
- 異常の出現を特定しインシデントの可能性に迅速に対応する能力
- 取引システムの安全に対する信頼性向上
- 今後予想される規制への対応準備

ビジネスの背景

Macrosynergy Partnersは2010年1月に設立されたグローバルマクロディスクレショナリーファンドを運用し、外国為替、クレジットおよびエクイティ、ならびに関連するデリバティブへの投資を行っています。投資に対してリスク調整後の高いリターンをクライアントに提供するMacrosynergyは、ますます複雑化するデジタル環境において堅牢で復旧能力の高い情報インフラに対する投資家の要求の高まりを背景に、サイバー防御を戦略的優先事項として掲げています。

「Macrosynergyでは、情報資産の保護をきわめて重大な問題としてとらえています。この分野において将来予想される規制に対応できるよう備えておく必要があるとの認識から、ネットワークアクティビティへの理解を強化するための積極的な対策を取ることにしたのです。」

Conor Claxton, Chief Operating Office, Macrosynergy Partners

課題

ヘッジファンドであるMacrosynergyは変化を続けるサイバーセキュリティについて業界特有の各種問題に直面しました。同じ金融サービス業界にある銀行と比べると、ヘッジファンドはサイバー防御の面では見過ごされがちでした。しかしながら、銀行同様に取扱いに細心の注意が必要なデータを保持しているのです。これにはクライアントのデータや、ヘッジファンド自身の所有するデータも含まれます。

クライアントの機密情報が流出した場合、ヘッジファンドにとって金銭面からも信用面からも深刻な損害につながります。金融サービス業界はセキュリティに対する相互の信頼関係を基盤としており、Macrosynergyはこの信頼関係を維持することの重要性を認識していました。また、MacrosynergyはEUの情報セキュリティ規制強化を見越した対応の重要性も感じていました。これは世界の多くの企業が既に対応を迫られていた問題です。さらに、投資家たちは資金を託す先の情報セキュリティインフラにますます注意を払うようになっています。

また、Macrosynergyは自社のデータ保護の重要性も認識しました。これには、最新の投資戦略や取引アルゴリズムなど重要な知的財産も含まれます。Macrosynergyのようなグローバルマクロヘッジファンドは、広範なポートフォリオに渡ってリスクをバランスさせるためにグローバル市場の詳細なデータや、情報に基づく予測に依存しているため、こうしたデータを保護することは非常に重要です。

さらに、多くのヘッジファンド同様、Macrosynergyは効率的に投資を成功させることに専念する少人数のチームで構成されています。そのため、小規模なエグゼクティブチームによる効率的な運営が可能なサイバー防御ソリューションであることが重要な要件でした。

解決策

このような条件を考慮した結果、MacrosynergyはDarktraceの自己学習型Enterprise Immune Systemソリューションを選択し、ネットワークアクティビティを継続的に監視することによりすべてのデジタル動作に対する総合的可視性を取得し、サイバーリスクの可能性を事前対応的に特定する方法を採用しました。ケンブリッジ大学で研究された教師なし機械学習および最新のベイズ数学理論に基づくEnterprise Immune Systemは、組織のネットワーク内のあらゆるユーザー、デバイス、サブネットの通常の動作を学習し、異常な挙動が出現次第即座に検出します。これにより、まったく新しい脅威による攻撃からもネットワークを防御することが可能になります。

特にMacrosynergyの場合、大規模なアナリストチームを必要とすることなく効果の高いサイバー防御ソリューションを運用できることが重要な要件でした。これを唯一可能にするのがDarktraceのソフトウェアです。Enterprise Immune Systemは脅威である可能性のある異常をフィルタリング、クラス分けし、最も深刻なものだけを表示することができます。DarktraceのユニークなThreat Visualizerインターフェイスはこの豊富な情報を、トップレベルのエグゼクティブにも、トレーニングを受けたサイバーアナリストにも理解できる方法で提示します。脅威の分類をわかりやすい形式で表示するだけでなく、動的に更新されるネットワーク全体の3D可視化モデルも提供します。

これによりMacrosynergyのシニアエグゼクティブは初めて自社のネットワークを根本的なレベルで理解することができ、その際高度な技術トレーニングを受ける必要はありませんでした。これに加えて、Darktraceのワールドクラスのサイバー脅威アナリストチームからThreat Intelligence Reportsが毎週提供されます。これによりMacrosynergyのエグゼクティブチームはネットワーク内の最も重要な異常の情報を定期的に知ることができます。

利点

Macrosynergyにとって最も直接的なメリットは、最高の投資機会を見出すための徹底した市場調査を、貴重なデータが外部に漏れず、高い競争力をもたらしてくれるという自信を持って実施できるということです。Darktraceによりもたらされる完全なネットワーク可視性は、常にネットワークが攻撃から守られているという安心をMacrosynergyに与えます。MacrosynergyはDarktraceとのパートナーシップを通じ、ヘッジファンド分野のサイバー防衛において同社が業界をリードし、投資家の懸念に真剣に取り組んでいるとの評価を構築することができ、投資の可能性も高まりました。

Threat Visualizerの直感的な使いやすさとDarktraceが提供するThreat Intelligence Reportsにより、Macrosynergyは業務の再構成を行ったり多数の新規雇用を行ったりすることなく、このような高いレベルのセキュリティを達成することができました。総合的に見て、Macrosynergyは現代のビジネスで必要となる情報の自由な流れに対してネットワークをオープンに保ち、効率的な業務を続けると同時に、サイバー攻撃や内部の脅威からの保護を実現することができています。

Darktraceについて

世界経済フォーラムにて“テクノロジー・パイオニア”に選出されたDarktraceは、世界をリードするサイバー防御企業の1つです。DarktraceのEnterprise Immune System技術はケンブリッジ大学で開発された機械学習と数学理論をベースに、組織内のあらゆるデバイス、ユーザーおよびネットワークの動作を分析し、これまでに特定されていない脅威をリアルタイムに検出します。エネルギーおよび公益事業、金融サービス、ヘルスケア、電気通信、製造、小売り、輸送を含む産業分野の世界的大手企業がDarktraceの自己学習型アプライアンスを使用しています。Darktraceは最先端の機械学習の専門家と政府のインテリジェンス エキスパートにより2013年に設立され本社は英国ケンブリッジと米国サンフランシスコにあり、オークランド、ボストン、シカゴ、ダラス、ロンドン、ロサンゼルス、ミラノ、ムンバイ、ニューヨーク、パリ、ソウル、シンガポール、シドニー、東京、トロントおよびワシントンDCに事務所を置いています。

お問い合わせ

電話：(03) 5456-5571

電子メール：japan@darktrace.com

www.darktrace.jp